

BCAO関西支部6月度（第111回）勉強会議事録

日時：2016年6月14日（火）19：15～20：45

場所：大阪市中央公会堂 B1F No. 4会議室

出席（順不同・敬称略）：

藤村、野原、鷺山、伊藤（高）、徳永、飯田、田中、柳父、伊藤（聖）、岡田、平井、中島、中村、
畠田、佐々木、林、荒家、別役、小友（記） 19人

司会：藤村 講師：飯田（江崎グリコ） 書記：小友

オブザーバー参加：河内保明、湯井恵美子

テーマ：「危機管理取り組みの企業事例」

（BCPを中心にグリコグループの危機管理取り組みについて紹介し意見交換を実施した）

内 容：スクリーンにて説明

1. グリコグループの紹介
2. グリコグループ危機管理の概要
 - ・体制、対応レベル、各関連委員会、危機管理文書体系など
3. BCPについて
 - ・ BCP概要、関連資料、BCP訓練（組織・概要）など
 - ・ 工場ごとにBCP（断層型地震を想定し、南海トラフは想定していない）がある。
 - ・ 本社部門BCPもある。
 - ・ BCPの発動基準の説明。
 - ・ BCPは「地震編（2014年に策定）」「パンデミック編（着手中）」で作っており、「原因事象主義」の方が分かりやすいので、そのようにした。
 - ・ リスクアセスメントの見直しは定期的には行っていない。
 - ・ RTOを作る際の指針は「お店の売り場から商品をなくさない」である。
 - ・ 部門ごとに「行動計画」がある。
 - ・ 「BCP対策本部要員」と「災害対策本部要員」は同じメンバーである。
 - ・ 「BCP訓練」は始めたばかりで、対策本部訓練、生産復旧業務訓練を各1回行ったが、課題がいろいろ見つかった。
4. 製品事故対応訓練について
 - ・ シナリオは「SNSでの事故」想定。
 - ・ 2回実施している。
 - ・ エキサイティングな訓練だった。
5. 海外リスク対応について

海外市場はアジアが大きい。日本は少子高齢化でターゲットは大人層にシフトしているが、アジアは若年層の比率が高く、若者向けに菓子売り込むことができ、ポテン

シャルが大きい。

質疑応答

Q：危機管理の対応レベルは「フェーズ1～3」までであるが、基準は明確か？

A：あまり明確ではない

Q：エスカレーション体制は出来ているのか？

A：確立されている。全ての情報は「グループ危機管理委員会」に行くようになっている。

Q：現在の危機管理体制になったのはいつから？

A：6～7年前くらいから。

Q：きっかけは？

A：内部統制が契機になった。

Q：一般的なリスク対策はどのようにやっているか？

A：現在取り組み中で、出来ているもの、出来ていないものがある。

Q：タイの洪水で対応を教えて欲しい。

A：何とか乗り切ったという表現である。

洪水後は売り上げが伸びた。

夏に増水し始め、秋に被害がではじめたので、時間があり対応はしやすかった（多くの機械製造業とは異なる）。

Q：海外出張者や駐在者の危機管理マニュアルはあるのか？

A：まだ不完全である。

・次回支部勉強会は7月20日（水）19:10 ～

場 所：大阪産業創造館

テーマ：「HUG（避難所運営ゲーム）を使用した災害対策初動訓練」

－災害発生時、あなたの地域コミュニティは大丈夫？HUGを通して避難所運営の課題と対応を疑似体験します－

講 師：株式会社富士通エフサス 小友 （神奈川県防災教育ファシリテーター）

以 上